



トップに聞く

Interviewer

三酸化アンチモンの国内最大手である日本精鉱は、2012年度の連結営業利益10億円を目標とする中期経営計画をスタートさせた。足元の需要動向や今後の収益拡大策などを福井秀明社長に聞いた。

日本精鉱 福井 秀明社長

—10年3月期は2期連続の最終損失だった。属粉も電気と自動車業界の回復に伴って右肩上がりで増え、1~3月期は期以降の回復の流れが続いている。6月以降も需

要が落ちるという話は聞こえてこないため、しばらく好調な状態が続くとみている。金属粉も順調

か。

「アンチモンは昨年下

半期以降の回復の流れが続

いている。6月以降も需

要が落ちるという話は聞

こえてこないため、しば

しばしば好調な状態が続くと

みている。金属粉も順調

だ。どこに微粉が好調につながる。このため環境推移している。アジア向けの輸出が伸びており、フル操業は今後も続く見通しだ」

—アンチモン地金の価格が3月末から急騰している。

—今後の価格見通しは。

「本来の需給バランス

「値上げ幅が大き過ぎる」という危険もあった

が、認めいただけつ

——OEMから合併に

する狙いは。

「OEMとの関係だけだと相手次第で終わってしまうこ

ともある。

「新しい生産体制を構築する。今の工場が狭くなっていることもある

が、品質要求が厳しいお客様との二二二に対応し

てより高いレベルの製品を供給するために、新工場の設立も考えている」

——金属粉事業の戦略は。

「現在の製品はモータ

ーの軸受けや積層セラミ

ックコンデンサーの外部電極向けが主な用途だが、自動車の電気・ハイ

ブリッジ化により新たな需要が生まれそうで、こ

うした需要を取り込んでいく。利益の出ない軸受

け向け汎用品の価格改定もお願いしていく」

「世界最大の生産国である中国南部の干ばつと湖南省冷水江市のアンチモン精錬企業に対する操業中止命令を背景に、トレーダーなどが意図的に価格を引き上げた。ただ干ばつについては同地域が雨期に入つており問題は解決した。もう一方の冷水江市だが、操業停止が続け市内の税収減に

止まっている。ただし今回の急邊に急騰するような状況ではないため、干ばつと操業停止令の2つの要因が近く解消するとして価格は下がり始めている。

ただ先行きの価格は分からぬといふところだ。中国政府による資源管理や環境規制の強化などを手掛かりに、

品のOEM先と交渉して

——中期計画で中国企

業との合併会社設立をめざしている。

「今まで以上に力を入れていきたい。前の中

(増田 正則)

フル操業今後も持続 中国合併へ交渉再開

——OEMから合併に

する狙いは。

「OEMとの関係だけだと相手次第で終わってしまうこ

ともある。

「新しい生産体制を構築する。今の工場が狭くな

っている。前中期計画中も話

を進めていたが、リーマン・ショックによる景気悪化で交渉を中断してしまった。今年度中に実現させつもりだ」

——金属粉事業の戦略は。

「現在の製品はモータ

ーの軸受けや積層セラミ

ックコンデンサーの外部電極向けが主な用途だが、自動車の電気・ハイ

ブリッジ化により新たな需

要が生まれそうで、こ

うした需要を取り込んで

いく。利益の出ない軸受

け向け汎用品の価格改定もお願いしていく」

——中期計画で中国企

業との合併会社設立をめ

ざしている。

「今まで以上に力を入

れていきたい。前の中

(増田 正則)